

シュガーロードの菓子文化

かつて、日本と海外を結ぶ唯一の窓口だった長崎。海外から伝えられる珍しい文化や物質は長崎街道を通過して、江戸に伝えられました。その中の一つに、当時は大変貴重だった砂糖がありました。こうして色々な菓子文化が華開いた長崎街道は、別名「シュガーロード」とも呼ばれており、今も佐賀の地に甘い菓子が受け継がれています。



shop information

所在地: 〒840-0816
佐賀市駅南本町3-18
営業時間: 9:00~19:00
営業期間: 通年
定休日: なし
駐車場: 10台
TEL: 0952-22-4141
FAX: 0952-26-7240



(写真はイメージです。)

佐賀の伝統工芸「佐賀錦」。そのイメージを取り入れた創作和菓子「さが錦」を販売しております。「さが錦」は蒸し菓子の浮島(うきしま)の中に小豆、栗をちりばめ上下をチョココートでつなぎパームクーヘンでサンドしたお菓子です。ご進物・お土産としてお客様から大変ご好評をいただいている商品です。その他、佐賀銘菓の小城羊羹、丸ぼうろなど美味しいお菓子を多数取り揃えております。

おいしさに心つたえて

村岡屋

(本店)

八頭司伝吉本舗

(佐賀唐人町店)



(写真はイメージです。)

”二期一会”の気持を大切に
初代、八頭司伝吉の工法に「こだわり」、全国でも類を見ない「昔ようかん」を製造しております。サクサクとした中身との絶妙な風味が、「昔ようかん」の身上です。ぜひ一度ご賞味ください。



shop information

所在地: 〒840-0813
佐賀市唐人1-5-38
営業時間: 9:00~20:00
営業期間: 通年
定休日: 元日のみ
駐車場: あり
TEL: 0952-23-3914

shop information

所在地: 〒840-0813
佐賀市唐人1-5-45
営業時間: 8:00~20:00
営業期間: 通年
定休日: なし
駐車場: 6台
TEL: 0952-23-5017



(写真はイメージです。)

「小城羊羹」の命名店
原材料を厳選、伝統製法で仕上げた特製切り羊羹から小型小城羊羹、おやつ菓子に至るまで多彩に提供。

村岡総本舗

(唐人町店)

北島

(白山本店)



(写真はイメージです。)

その味わいは、職人と原料との対話から生まれます
ポルトガル伝来の焼菓子・マルポーロは佐賀みやげの定番です。筑紫平野の小麦粉と鶏卵、砂糖を使い、独自の製法でふっくらと焼き上げました。甘みを抑えた素朴な味は飽きがこない評判です。本店は洗練されたおしゃれな外観が目印です。お土産にどうぞ。



shop information

所在地: 〒840-8511
佐賀市白山2-2-5
営業時間: 9:00~20:00
営業期間: 通年
定休日: なし
駐車場: 契約駐車場あり
TEL: 0952-26-4161

佐賀は昔から恵比須信仰の盛んなところで、街なかの至るところに恵比須像を見ることができます。その数は、市内だけで800体以上が確認されており、平成23年に、様々な日本一を認定する機関から、佐賀市が恵比須の数日本一であると認定をうけました。その中から佐賀の老舗銘菓店が立ち並ぶ中央大通りをメインに恵比須様をピックアップしてみました。恵比須さんを愛でながら、銘菓の美味しいお土産をゲットできます。

お問い合わせ/(一社)佐賀市観光協会

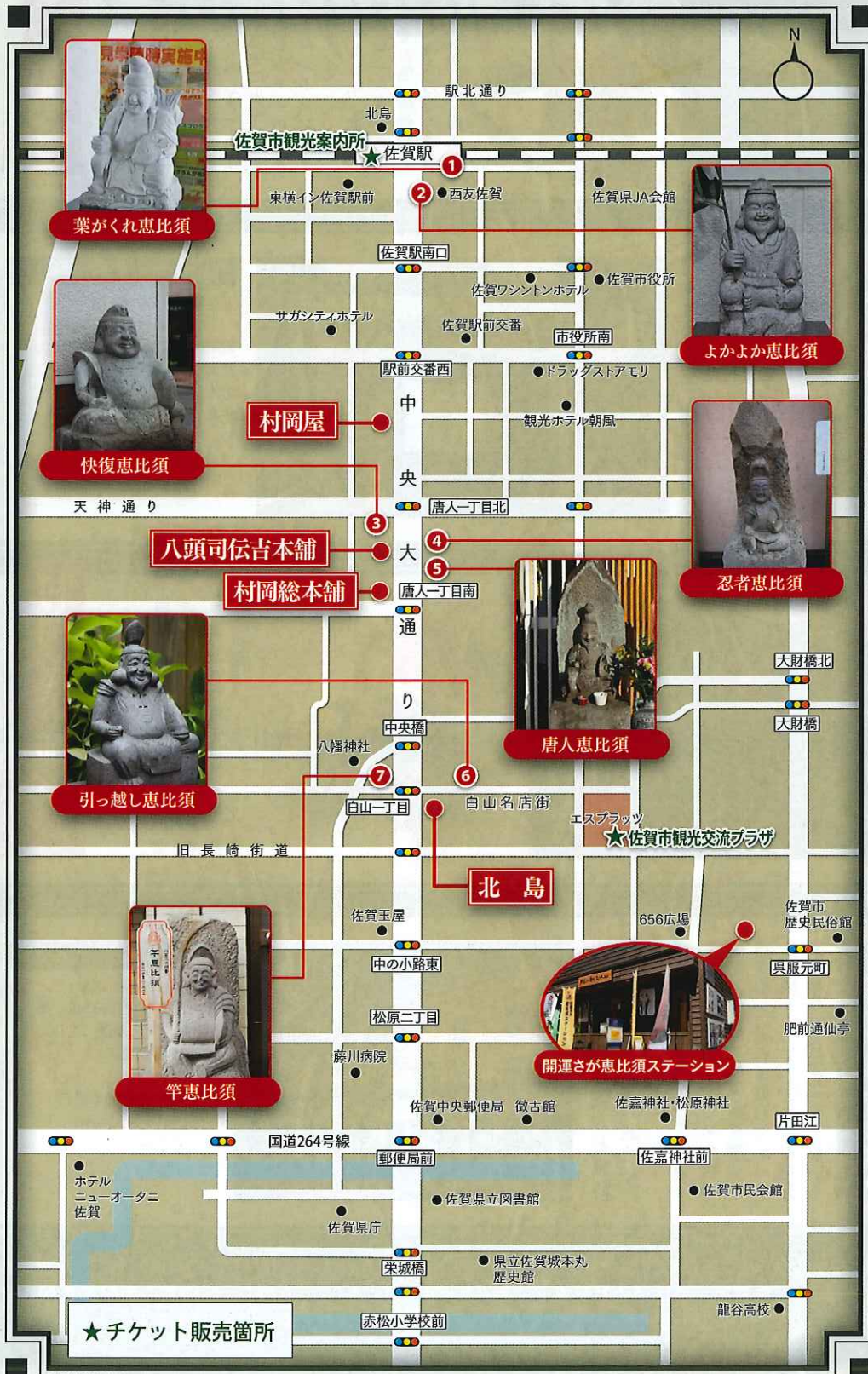
〒840-0826 佐賀市白山2-7-1 エスプラッツ2F 佐賀市観光交流プラザ TEL0952-20-2200 FAX0952-28-5656
HP <http://www.sagabai.com/> Email kikaku@sagabai.com お問い合わせのお時間: 9:30~17:30(土・日・祝・年末年始は休業)

手軽に恵比須とお菓子を楽しんでいただけるチケットで

佐賀銘菓めぐりの 恵比須散歩

村岡屋・八頭司伝吉本舗・村岡総本舗・北島

恵比須さんを愛でながら
佐賀の銘菓の美味しいお土産をGET!



恵比須散歩コースの 7体の恵比須さん

① 葉がくれ恵比須

佐賀葉がくれライオンズより寄贈された佐賀市内820体目の恵比須さん。大きく口を開けた満面の笑みが特徴。佐賀空港やJR佐賀駅ホームに続き市の「玄関口」3か所全てに設置された。

② よかよか恵比須

佐賀市のJR佐賀駅前の宝くじ売り場にある恵比須像。これまで億万長者を8人も出している県内屈指の幸運な売り場である。よかよか恵比須像は金運パワーのある像といわれている。

③ 快復恵比須

昭和25年頃建立。当時周囲には鮮魚店や八百屋等の店が並んでおり、それらの「商売繁盛」の願いを込めて造られた。ある時、右腕が欠けてしまうが、石工さんの厚意のもと修復。それからは「快復恵比須」と呼ばれている。

④ 忍者恵比須

慶長4年に鍋島公が唐人町を作った際、福岡の黒田藩より持ち込まれたと言われている恵比須さん。鍋島藩の様子を探るスパイとして送り込まれたのでは?という伝説もある。全身が真っ黒なのは、忍者服のイメージからかもしれない。

⑤ 唐人恵比須

波座に鎮座し、目尻には笑いジワ、高い鼻、そして歯はむき出しで大笑い。駅から県庁へと続く佐賀市のシンボルロード沿いで、賑やかな街並みを見守る。鍋島家お抱えの石仏彫刻師の子孫が作った数少ない恵比須さん。

⑥ 引越し恵比須

白山アーケードのそばに建てられた白山恵比須神社。その境内に2002年に引越ししてきたのがこの恵比須さん。隣に生えている銀杏の若木は高千穂の天岩戸神社で生まれ、こちらで芽を出したの。

⑦ 竿恵比須

全身1メートル程あり、比較的大きな恵比須さん。道路が新しく作られたビルの裏に置き去りにされていたところを、不憫に思った美容室のオーナーが移動させ今日に至る。今では水をあげたり、近所の方が拝んだり大切にされている。